

平成26年度第3回熊本市中央区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

【日時】：平成26年10月21日（火） 14:00～15:30

【場所】：熊本市役所議会棟2階 議運・理事会室

【出席委員】：16名出席

古賀会長、杉光副会長、阿久根委員、荒木委員、今坂委員、古賀委員、佐竹委員、竹原委員、
谷口委員、主海委員、徳山委員、鳥崎委員、新田委員、水野委員、毛利委員、吉田委員

【議事要旨】

1・開会

2・議事

（1）平成26年度まちづくり事業の今後の方向性について（報告）

（古賀会長）平成26年度まちづくり事業の方向性について事務局より説明をお願いします。

（事務局）（資料1に基づき、平成26年度の進捗状況と平成27年度の事業見通しを説明）

【質問・意見】

（古賀会長）5のアクティブ・シニア増殖プロジェクトの説明について、鳥崎委員から補足事項があればお願いしたい。

（鳥崎委員）進捗状況について、資料にあるように、毎回、寄りあいという形で開かれている会合に10数人集まっている。最初、皆知り合いではない状態から、お互い知り合っているいろいろな話をしようということから始まり、ここ数回は、昭和をテーマに11月にどういことをやろうかということを中心に話し合ってきた。自分達が考え、自分達で役割分担などいろいろ決めていくという雰囲気ができてきた。メンバーの中では地域の中で活動をしている方もいれば全くしていない方もいるが、自分のできることを少しずつ出し合いながら進み実践的な研修となっている。

今後についてだが、26年度の「はあもにいフェスタ」でのイベントを実験的な取り組みとしているが、その後どのように活動が展開していくのかなかなか方向が難しいと感じている。それぞれの方が、この活動を通じて、自分がやりたいことはこんなこと、自分の住んでいるところでこういう風に活かしていく考えを来年度に実現していけるようにしたい。

（古賀会長）アクティブ・シニア増殖プロジェクトは前回いろんなご意見をいただいた。鳥崎委員の世話役で随分進捗した。また、具体的に11月29・30日にイベントが開催される。2月開催予定の第4回懇話会で委員の皆さんにいろんなご意見をいただきたいので、ご都合がつく方は、はあもにいフェスタ2014に参加していただくと有り難い。

（古賀会長）平成26年度まちづくり事業の方向性について、質問、ご意見等あるか。

補足説明をさせていただくと、8の障がい児就労体験 ふれジョブの拡大支援について、26年度で事業は終了。理由は、提案校区のほうから、リーフレット作成ということが目標ということであったので、今年度の事業として、成果物を作ることが区切りと伺っている。今後は、自分達でリーフレットを活用して活動を充実させていくという考えである。

（徳山委員）9の中央区ぼうさいキャラバンについて、前は、帯西だけが決まっていた、他の校区については、全くの白紙と聞いたが、それは帯西の開催を受けて他の校区から問い合わせがあったのか。それとも自治会長に周知されての問合せなのか。

（総務企画課）当初から各校区に投げかけをしていたところで、帯西校区で実施したときは予定がなかった。その後、出水校区と帯山校区から手が上がった。

(徳山委員) 帯西校区で開催したという実績が耳に入っている問合せか。前回の懇話会で、周知不足じゃないかという話が合ったが。

(総務企画課) 以前からいくつか申し出があつて、こちらから自治会長さんに説明に伺い、この二つの校区が手をあげられた。

(古賀会長) 他の校区から打診などはないのか。

(総務企画課) 今のところ来年に向けて広げていきたいと思っているが、以前から各校区で大々的に防災訓練をやっているところもあり、あえてこれをやる必要があるのかという声もある。来年度は、今年の成果を活用して、広げて行きたいと考えている。

(鳥崎委員) 6の校区の町内割入電子地図の作成と活用について、今作成しているものは、例えば、熊本市のウェブタウンに掲載することができるのか。印刷物でしか利用できないのか。

(保健子ども課) 現在考えているのは、各校区で活用していただくための地図であり、電子と紙の地図を各校区に提供する。ネット上に掲載することは考えていない。

(古賀会長) 一人暮らしの方、子ども達の見守りなど具体的な目標に向けて、町内割り地図は、今年度内に完成ということである。

(鳥崎委員) この地図については、帯山西、帯山、大江など6つの校区の社会福祉協議会会長と民児協の中で出てきたアイデアで、とてもいいということで提案した。その議論の中で、校区毎につくことも校区で作ったものが、一度につなげてみれるようなものがあるといい。そのときの問題意識として、地域包括ケアシステムの話し合いの一環だったが、介護、医療などの話になるとひとつの校区の中では収まりきれない、隣の校区、またその隣の校区と、例えば、医療、介護の圏域があるので、隣の校区で子どもの医療をやっているところはないだろうか簡単に採せるようにしたいという意見もあった。校区の中だけで印刷物として配布も使えるが、つながって隣の校区、その隣の校区を調べられるといいと思う。できればそういう方向にしてほしい。

(総務企画課) 今の予定では、校区の町内割りを作って、校区の方にデータはPDFとJPEG、それと紙の地図をお渡しする予定にしている。資料1に書いてあるよう平成27年度は地図を各校区で加工していただくことを考えている。データであるので、今後、各データを各校区でつなげることも可能。今回、校区で責任をもって線を引いてもらい作るので、つなげる時、各校区の違いなどは調整する必要がある。校区だけではなくささえりあに配布することも考えている。

(古賀会長) 今年度は、むしろ町内割りというこれまで全くなかったデータを整えるというのが主眼で、これはできつつある。平成27年度以降、利用できるかどうか、権利や責任、個人情報についてどうするかは検討はさせていただきたい。活用するとき、若干の齟齬が懸念されるので、そのような方向性など可能かどうかという検討をしていく

(徳山委員) 息子が小学校入学するときに、プリントで何町内か記入するところがあったがわからなかった。ネット上で検索しても校区は出てくるが町内はわからない。学校に問い合わせても、先生達は異動があるため町内割りまでわからないといわれる。会長が言われるようにいろんなハードルがあるかと思うが、ネット上で自分の町内がわかると非常にありがたい。古くからいる方や、地域活動に参加されている方は分かると思うが、中央区は通勤族も多く、またマンションを買って子どもの入学で引っ越してきたという方も多い、そのような方が自分の町内がどこかわかるように将来的に活用できるようになるといいと思うの

で検討をお願いする。

(古賀会長) このような要望があったということで検討をお願いする。

(毛利会長) 9の中央区ぼうさいキャラバンについて、校区の中で合同防災訓練、防災活動などやっているのので、防災キャラバンを、合同防災などやっている校区と、どんなところとどんな形でやると効果があるか具体的に話をもっていければ参加される校区が増えると思う。中央区は集合住宅、マンション等が多いので、はしご車等出動した合同防災キャンペーンなど集合住宅向けなどあると関心をもっていている方が多い。

8の障がい児就労体験ふれジョブの拡大支援については徐々に広がりつつある。校区の中というひとつの限定した中であるが、まちづくりの予算で作ったリーフレットやパンフレット、腕章、ジャンパーはあるので、この事業は一年で終わるが、校区で、継続してずっとやるので、別の形で応援しないといけないと思っている。特別支援学級や中学校の先生を集めた研修会など実際やっているが、実は、腕章は20本あるが足りない、100本くらい必要。これはまちづくり委員会や自治協で出そうということにしている。もう少し呼びかけをして幅広い参加ができるようにこれからしていきたいと思っている。

3の中央区・校区カルタ制作事業、4の中央区お宝探検事業について、実際に実施する中、車の両輪のようで、どちらが先といえず、うまくやっていけば地域のお宝の掘り起こしできるし、磨き上げが出来るのではないと思う。この事業について、年代を超えてより多くの人に参加することでこの事業が成功するだろうと思う。まだ、カルタについては取り組んでないところが多いようだが、事業を展開することで、地域の大事なもの、お宝、これから育てていかなければいけないようなことをテーマとした探検事業としてつながるので、もう少し進めていけたらと思う。

(古賀会長) 実際に活動しながらお気づきのところを事務局で反映していただければと思う。

本事業を昨年度検討するときに、他の校区への拡大、波及効果を大事な要件として考えたが、なかなか難しい。他の校区へ広げていくしかけについて懇話会でも、可能な限り議論させていただきたい。

(佐竹会長) 7の水まち水前寺にぎわいづくり支援事業について、ちらしの裏のステージプログラムをみると、砂取小や出水小、ロアッソなど地元を押していこうというのが見えるが、FUMIKAは福岡で活躍されているということで、来年度以降は、地元で活躍している人を呼ぶといいイベントになるのではと思う。

(杉光会長) 12日が台風19号でできなくなり、今度の26日に開催となったので若干説明する。ご指摘があったように、地元の若手の経営者の方が新しく新水前寺にぎわせ隊という団体を作り、まさに地元で作り地元でやるということで動いている。プログラムについて、変更があるので説明する。最初の砂取、出水小の2校は予定していたが、別の行事のため不参加、代わりに湧心館高校の和太鼓が参加される。また、地元のバトントワリング、シェリーダンススタジオの踊りが加わった。FUMIKAはスケジュールが合わず26日は来られない。変わりに地元の方が交渉した小野由布という出水に住み、ギターの弾き語りをされていて、火の国まつりに出演した方が、是非地元のまつりを立ち上げるなら協力したいということで出演する。

新水前寺にぎわせ隊という若手の経営者が、地元水前寺を盛り上げるために関わりをもっていききたいという基本ラインは変えたくないということで、今年度も実施したいし、来年度以降も実施するというで動いている。ここまでの活動で、地元の結束力が強まったことを報告する。

それと同時に若手の経営者を中心に水前寺をもう一度見直そうと、水前寺成趣園を含め水前寺界隈の歴史や文化の勉強会もスタートした。事業自体、出演する子どもも含めていい経験を積み、歴史勉強会も動いていくまつりになると思うので今後も支援していきたい。

(古賀会長) 大成功をお祈りする。他にご意見はあるか。

(古賀会長) 2番目の議題 平成27年度中央区まちづくり推進事業について

(事務局) 資料 2 及び資料 2-2 に基づき説明

(古賀会長) 1 の「熊本城音楽フェスティバル」について。この事業について、中央区まちづくり事業としてふさわしいかどうかという観点で取り上げるべきかどうかということでご意見をいただければと思う。

(徳山委員) 提案者は、熊本城にこだわっているのか。熊本城サイドが難しいということだが、こだわりがあるのか。

(総務企画課) 提案者は、熊本城を希望されているが、熊本城が文化財敷地であるということを知らせ、本人からも確認していただいた。熊本城の取り扱いは事業計画に沿って進めており、お城まつりなど春夏秋冬あるが、文化財審議会に諮りながら進めている、その中に組み込まれればいいが、別となると難しいということをも本人に確認をしている。それ以外の場所でできないか一緒に検討したが、今回は、お城ということだった。

(毛利委員) 今のご意見と近いが、私は特別遺跡保存活用委員であり、熊本城の利活用の話がよく出るが、どうしても熊本城でやりたい、熊本城でやるとこういうメリットがある、こういう人が参加する、熊本城でやるともっと親しんでもらえる、熊本城がこれだけの文化遺産で、ここで演奏などやると絆になる、例えば日本と韓国の交流になるなど、熊本城でどうしてもやりたいというのが審査のときの重要なポイントであった。

(古賀会長) 熊本城について、率直に申し上げると熊本市が大失敗をした。それを文化財の調査研究ということで、きちんと桜の馬場を含め整備をしている。今、文化財の保護という観点、お城を含む敷地について厳しい世の中の目がある。この提案がそれだけの批判に耐えられる内容なのかと問われたときに厳しい。今後、藤崎台球場でもいいのではという話がでてくるかもしれないが。今回の提案は、率直に申し上げて難しいのではと思う。

(佐竹委員) 間をとって、桜の馬場城彩苑の中にある親水施設はどうか。熊本城総合管理事務所が管理しているところで、実際、音楽や踊りのイベントをしている。それほど大規模でないなら、そこでやるということは、お城を文化財ということで守りながらも、近くに人を呼んできて、つながることになることができるのではと思う、提案者に城彩苑はどうかと返すのはどうか。

(古賀会長) 今の時点での資料に基づく判断を行う。提案者が熊本城でやりたいといっているので、それが可能かどうかということを今日の時点では判断したい。そのため、第 2 回で、提案者にご意見を伺うということを手続き上させていただいている。来年度以降、平成 28 年度の提案事項になるかもしれない。実際、個人での提案となると、どうイベントとして組み立てていくかという責任、グループなどが求められる。やはり個人の提案は言いつばなしになるので、そのあたりを担保することを、事前に話が出たとき事務局も相談したほうが上手くいくのではと思う。今日は、代案を出すのではなく、ここにあるプランで判断したい。

(毛利会長) 熊本城フェスティバルを提案された方は、本丸のことをいわれているのか、熊本城の保存管理計画の敷地内でいわれているのか、わかれば教えてほしい。

(総務企画課) 会場は、二の丸広場といわれている。二の丸広場は、ステージを組むなど、杭打ちできないときいている。イベントについては、今はほとんどないかと思う。以前は、高校生クイズや、火の国まつりで使用したりしたが、今、会長がいわれたように熊本城と話したが難しい。安全上の問題、ロック演奏ということでどれだけの規模でどうなるかを踏まえると、予算的にもかなりかけないと安全上難

しいということ話をした。

(古賀会長) 事務局もなんか工夫できないかと考えたが、技術的、社会的な要請などあり、提案について次年度以降、もう少し、洗練した提案として考えてみたい。私からの提案だが、今やりとりがあったような事情を考慮し、今回は採用せず、次年度以降、提案があればだが検討。平成27年度事業候補としては推薦しないということによろしいか。

異議なし

(古賀会長) 2の「食べて、話して繋がろう中央区」について、これについてご質問ご意見があればお願いする。

(徳山委員) (提案事業の取組み希望内容の) 3地域及び小学校にDVDの配布説明会の開催とあるが、中央区として、例えば、うまか体操を週1回の給食のときにやってくださいという働きかけを考えているのか、できたDVDを配布するのか、モデル校を選んで実施するのか、現時点でどう考えているのか。

(保健子ども課) 19校にDVDとマニュアルを配り、どう使うか学校側に判断をまかせる。まずはこういったものがあるというお知らせをし、関心があるところには具体的な説明を含め掘り下げていくということで伺っている。

(徳山委員) (自分の子どもの) 小学校がフッ素洗口のモデル校で、その際、学校側から、なかなか学校のカリキュラム以外について、フッ素洗口なら朝の時間、休み時間、給食の前後などお昼休みに組み込むにしても、先生の手が足りない、子ども達の統率が授業ではないので難しいという話があった。その中で、学校から、行政や教育委員会からからやってくださいということなら自分達はやるが、提案だけとなると時間的に難しいという話もあった。今回小学校に配布されるのが、ただのお知らせ活動なのか、学校の1つの活動として是非やってくださいということなのかそこを確認したかった。

(古賀会長) 採択されると決まりましたら、学校の来年度の行事は2月に決まるので、入ることができるように、早めに動くことが大事。人手については、市民活動団体をお持ちなので、パーソンパワーが使えると思う。

(水野委員) 中央区らしさ、中央区がする意味合いがどこにあるのか考えながら聞いているが、生活レベルになると中央区だからとか中央区らしさというのはあまり関係なく、どこも重要なことでこの区も一緒になって取り組んでいくといいのかなと思う。区単位でやる必要があるのか、特に中央区が率先してやる事業なら、他の区がそれいいよねと思ってもらえるような形ですという意気込みでやっていくといいと思う。中央区の実業として、生活レベルの実業は、どういう基準で考えるといいのか考えてしまう。

資料の中での希望内容で、応援隊の育成とあるが、新たに募集して養成するのは大変なので、例えば8020の方に相談してベロタッチまでする、また、事業にならなくても保健師さん達に覚えてもらって校区の子育てサロンに行ったときに歯の磨き方と一緒に教えるなど、徐々に積み重ねていき、その後大きくやるというのがいいと感じた。

冊子作成はいいと思うが、最近レシピ本が多くあるので、中央区らしさとして、まちづくりマガジンがあるのでマガジンの中で何回か組み込んでいくというように他の事業と丁寧に重ね合わせて大きくやるのがいいと思う。

(鳥崎委員) 少し重なるところもあるが、他の既に行われている活動との連携の仕方はどうなるかということこれから考えないといけない。それぞれの区で健康づくりを大きなテーマでやっていて、中央区の場合は、特に何かのイベントをするというのではなく、日常的にそれぞれの校区、地域で行われている

る活動の中に、健康づくりという視点からの取組みを少しずつ加えていくという方向性だったと思う。いろいろなイベントや取組みの中の健康についてだが、私の場合は、社会福祉協議会として、介護予防など体操を取り入れたり、食事についての講演をしたりと、そのような意識をもって広がっていると思う。またそれとは別に食生活改善委員との調理を加えたりなどの取組みも別に行っている。既に行われているこれらの取組みと今度提案される事業の繋がり、縦割りではない、うまく連携した方向を考えていくべきだと思う。

(今坂委員) 特別何かをするというのは大変なので、今やっている中で取り組むのがやりやすいと思う。保健子ども課で音頭をとるなら、学校側や「食改さん」などある程度パイプがつながっていると思うので、このような冊子ではなく、実際食べさせてもらえるようなこともできないか。ビブレスなど食べ物を売っているが、例えば、昭和ではこんな給食がでていた、給食はこんなように大事に作られているというパネルを作ってもいい。地域、校区ですていくのもいいが、こういうことをしていますよということを、人が集まる場所でやるといい。大々的ではなく、「食改さん」や学校の栄養士、調理師などの団体に声かけし、イベントをし、それに付随してベロタッチがあるということを少しずつ皆さんにお知らせするのがいい。何か行事で人に知ってもらいたいと言う場合、食や楽しさが入っていないとなかなか思いに残らない。もっと楽しく、冊子ではなく、実物を見たい、食べてみたいと思うし、話でもよくきく。地域での行事も講演会より、食バザーなど少し食がはいると、集まり具合、つながりが違う。中央区の事業でも同じように考えられると思う。

(古賀会長) 今いただいたご意見は、この事業を進める中でいろいろ工夫改善をしたらどうかというご提案であった。そういった意味で、各委員のご意見のように、中央区だけの問題ではないが、中央区でこういった啓発イベントをすることで波及効果や、食の見せ方の工夫、また、事業の趣旨は、ベロタッチをきちんと市民に伝えてほしいというプログラムをお願いするということで、事業候補として推薦ということではよろしいか。

異議なし

(古賀会長) 3「熊本城～新町・古町～中心市街地～水前寺 文武両道：八雲と武蔵をメインとした「文学の散歩道」、「不敗の道」」についてご意見ご質問をお願いします。

(新田委員) 資料について、なぜ赤文字になっているのか。

(総務企画課) 赤文字になっているのは、提案者よりテーマの変更があったことが分かるように。提案いただいた事業とタイトルは統一させてもらっている。

(古賀会長) 第2回で、武蔵は西区、北区に名所がありそちらでの活用ということで、八雲を中心にしてはという議論があったが、市は没後 110 年記念事業としていろんな形で取り組まれている。来年度、取り組むとなると2回することになるので、取り上げるメリットがあるのかという事務局の所見が書かれている。八雲関係の本年度事業資料をお配りしているが、提案事業と重なる部分があるので、今回どう取り扱うかご意見いただきたい。

(徳山委員) 確認だが、前回は書店を活用してつなげるということだったが、テーマが変わって書店について書いてないが、書店とのつながりはなくなったと考えていいのか。

(総務企画課) 書店についてボンクマボン実行委員会が入っていたが、今回も同様に入っている。この団体も踏まえて、この事業ができないかという提案である

(佐竹委員) 鬼太郎ロードのイメージでということだが、具体的に何か。水木しげるロードは、商店街の

沿道に全国から寄付を募って銅像を作るということをメインにしつつ、周りのお土産屋さんなど自然発生的に水木しげるさん関係のものを商品開発して置くというのがムーブメントである。今回は、銅像を造るということは入ってないと思うが、何をもって水木しげるロードをイメージとなっているのかお聞きしたい。

(総務企画課) 提案者によると、八雲は熊本市内に旧家が点在していて、その中でも子飼商店街をそのようにしたいという思いがある。商店街に話をまだしていないということで、事業化するにあたり、今後難しさはある。

(古賀会長) 境港が妖怪となると、八雲は怪談なので幽霊ということではないのか。幽霊の格好ででてくるなど。

(総務企画課) コスプレということで、まちづくりの一環でそういうのができたらというのがあり、怪談、幽霊などが提案されている。

(徳山委員) 水木しげるロードは常設しているが、これに関しては単発的なもの、イベントの時だけ怪談ロードになるのか。

(総務企画課) 子飼商店街は活気がある商店街のひとつであり、小泉八雲のネーミングを活用し、水木しげるロードのように、イメージブランドを考えられている。地域が積極的にならないと難しいと思う。

(古賀会長) 私からの対応の提案だが、今年度 110 周年事業をし、来年度から中央区で実施となると、税金を使ってやる事業なので、気になるところがある。この提案については、今回はいったん推薦せず、もう一度十分練っていただいて、平成 28 年度でもう一度提案していただく、そこで検討したいと考えているがいかがか。例えば今回のプログラムは安政町の熊本旧居中心とした事業である。今、話がでてきた子飼商店街もうまく進むと可能性はあるが、新しい取組みについて、少し具体的に、実際提案者のほうで汗を流していただくなどの期間が必要ということで、今年度はいったん見送り、28 年度以降に提案があったときにきちんと協議するというにしたいがいかがか。

異議なし

(古賀会長) 4「井手を活かしたまちづくり」について

(竹原委員) 平成 26 年度が予備調査や地区との協議活動ということで、既存団体と地区との協議とあるが、現在、提案者は 26 年度、地区や既存団体の協議はどの程度進んでいるのか。27 年度も渡鹿用水の予備調査となっているので、現実的には、大井手を中心としたウォーキング開催、マップ作成となるだろうが、そこに至るまでの 26 年度の協議状況について聞きたい。

(総務企画課) 提案者の方は井手を使つてのまちづくりを考えているが、皆さんなかなか井手への関心が今までなかったと思う。渡鹿堰は加藤清正が 400 年前に築造しているが、そこから大井手、一の井手があり、それを再発見してまちづくりにつなげられないかというご提案。提案者もまちづくり詳しい知識はお持ちでないで、地域的な協力は大井手を守る会や、託麻原校区や白川校区などの校区の皆さんの協力などについては、これからの話になる。一度にできないので計画的に進めていきたい。

(徳山委員) 27 年度はまず大井手からとなっているが、大井手の後、一の井手、二の井手、三の井手を継続して全部やっていくのか。昨年度の提案ということで、事務局と調整されて、今回再提案をされたということだが、ひとつずつ何年かけてやっていこうという考えなのか。

(総務企画課) 先ずは、27 年度は、大井手となっているものの、井手についての資料的なものがない。資料をどれだけまとめていくかということが最初になると思う。

井手についての資料は非常に少なく、提案者の方も一緒に勉強したいと言われている。まずは大井手と書いているが、その後の一の井手、二の井手については開溝している部分が少なく、見えない部分も多いため具体的に考えているわけではない。

まずは、大井手について生物調査や、実態調査など、勉強し、清正のことを語りあったりする、大井手が一年で終わるのか二年でかかるのかというのは現状で分からない状況。

(古賀会長) どの程度の作業になるかわからないが、事業化された場合、予算のつけ方、めりはりが必要になると思う。

(毛利委員) 提案をされた地域遺産研修会はどういう会なのか。加藤清正が造った井手の歴史的な研究会なのか、用水の役割、土木、井手にかかる橋など土木工事関係の研究会なのか、井手から波及した地域の地名の研究会なのか、どのあたりが目的、研究されているのか教えていただきたい。

(総務企画課) 提案者の方は大学の先生とゼミの方で地域遺産研究会を作っている。詳しくは聞いてないが、井手には、橋や、堰、井戸などがあり、提案者は建築学が専攻なのでそのあたりは詳しい。

(毛利委員) ほとんど中央区を流れているので、私も興味がある。中央区はどのあたりがポイントなのか、事業として取り上げ中央区として重要な井手だと認識して、中央区の財産として保存するのか、もっと活用する方法があるのか、子ども達に伝えていく遺産なのかなどそのような展開に踏み込んでいけると意義があると思う。

(今坂委員) 私も井手に興味がある、毛利委員の言われるよう子ども達に残すというのものもあるし、歴史好きの年配の人達の興味をそそられるようなものだと思う。このような事業をするにあたり、発信の仕方、加藤清正が渡鹿堰から何のために、どのような城下町づくり、何を念頭に置いていたのかなど謎解きの部分も一緒に発信し、一緒に調べていかないと人を募る。アクティブシニアの方を募っていい。

私は、この懇話会で川と思っていたものが井手と知り、関心が高まった。歴史好き、加藤清正好きなど関わりたい方がおられるので、そのような人たちの興味のそそるような発信が必要だと思う。うまくいけば、子ども達のウォーキングなどで皆が教えられるというような社会科勉強の一環として取り入れられると思う。先ずは、関心のある人達が遊べるような形で事業を進めていくといい。

(毛利委員) 今のお話のとおり。中央区が事業として井手を取り上げると、手永は水を配水するものだが、北区は池田手永を研究している、西区は横手手永、中央区は大井手と研究してもいい。

(谷口委員) 井手の事業が、一番興味があり、進めていただきたい。進め方として、校区でまちづくりの部会などと連携する。実際、出水南校区の歴史部会で、冊子を作り、地域の歴史が作られている。冊子を見ると、この地域に長い歴史があったというのがわかる。地域の中に詳しい方がいるので、掘りお越していくと、まちづくりが活発化すると思うので続けていただきたい。

(水野委員) 井手を活かしたまちづくりということで、井手をどうやってまちづくりに活かすのか漠然としているように感じていたが、井手を活かしたまちづくりをすぐするのではなく、井手のまちづくりができるように、井手の魅力を探り出す調査事業なのかなと思う。調査で出てきたものを活かして、次に井手を活かしたまちづくりにしようという前段階と考えるといいかなと思う。それに加え、魅力がどんなところにあるのか調査をするにあたり、関わる人を増やすことでファン層を増やし、実際まちづくりをするときにたくさんの方が応援して広めていくという、前段階であるならいいと思う。

(古賀会長) 今いただいたご意見は、概ね進めていいというご意見。ただし、すぐにまちづくりという性

格ではなく、調査研究を進める、あるいはまだ町内会が入っていないので、校区の自治会に広げるという準備段階として平成27年度しっかりやる、28年度以降まちづくりに広がる可能性を追求できるように基礎的、基本的な部分をしっかりやるということで、本提案を推薦するという事でよろしいか。

(水野委員) 資料の中で、中央区役所の役割、望むことで、マガジン等とあるので、予算をつけるまではないが、進めていくなら、マガジンで掲載し皆さんに知ってもらうという応援の仕方はある。

(古賀会長) 情報発信のツールがあるので、研究の途上、わかったこと、そういった内容を投稿するという事で、検討いただきたい。

(古賀会長) 5については、冒頭申し上げたとおり提案者から取り下げがあったので、今回4つのアイデア事業について検討した結果、2. 食べて、話して繋がろう中央区と4 井手を活かしたまちづくりの2つを平成27年度のまちづくり事業として推薦するということにする。今年の事業のほとんどが平成27年度に継続実施するため、事業が多くなっている中で、本懇話会で、途中の検証と進捗をしっかりとさせていただく。尚、作業部会の設置は、当面考える必要はないので、必要があれば考えさせていただくということでよいか。

(古賀会長) 他にご意見がなければ審議を終了する。

(事務局) 第4回懇話会については、2月12日(木曜日)午後を予定する。